

この人と吉野川

いつも、そこに吉野川があった——
未来を担う若者とともにも今日も語り、踊る

ときめきダンスカンパニー 代表 田村 典子^{のりこ}さん



ときめきダンスカンパニー四国のアドプト担当区間は吉野川橋のたもと。集合写真も絵になりますね！

田村典子さん(四国大学生生活科学部児童学科教授)が代表を務める「ときめきダンスカンパニー四国」は、平成3年(1991)、四国大学を母体に、学生や教職員、地域の子どもやその保護者によって結成されました。徳島の自然や歴史、文化をテーマにした創作ダンスで、これまでに30回以上の公演を行ってきました。

吉野川源流を訪ねて

四国大学は吉野川の河口、吉野川橋と眉山を望むビューポイントに立っています。朝に夕に吉野川を眺めるうち、「吉野川がいつも自分の中に入った。作品にしてみたい」と考えるようになりました。平成5年(1993)5月、高知県白猪谷の吉野川源流を訪ねることが大きな転機となりました。沢を登るのと2時間。たどりついた源流は「原生林が生い茂り、自然の時空の重さを実感した。ここから流れ出る194kmの流れにドラマを感じた」と田村さん。



吉野川の源流で踊る田村さん



ときめきダンスカンパニー四国の公演

その年の公演「吉野川賛歌」を皮切りに、吉野川の自然、恵み、伝統文化、先人達の洪水との戦いもダンスで表現してきました。また、より多くの人に吉野川のことを伝えていきたいと、絵本やビデオを制作。幼稚園や小学校で出前授業も行いました。もちろんアドプト・プログラム吉野川にも参加！こうした活動が認められ、平成12年(2000)には第2回日本水大賞審査部会特別賞を受賞しました。

学び、考え、身体で表現する、その過程が大切。大学の授業でも吉野川は重要なツールです。「最近の学生や子ども達は川で遊んだ経験が少なく、遊び方を知らない。川は楽しさも危険なことも教えてくれ、子どもの感性を育んでくれる」と田村さん。

令和元年(2019)8月にはゼミの学生達と「学んで遊ぼう、鮎喰川」を開催。新型コロナウイルスの影響で令和2・3年は中止となりましたが、今年も企画を練っています。「水辺でボール遊びをしたり、ダンスしたり、それから……」——子どものようなくみずみずしい感性で、田村さんは今日も学生達と語り、踊っています。



つるぎ町ゆうゆうパークで開催された「吉野川で遊ぼう」に学生達がスタッフとして参加。子ども達と遊びながら、吉野川の魅力にふれる貴重な機会となっています

次世代の若者とともにも

吉野川の自然とふれあおう

吉野川現地(フィールド)講座

徳島河川国道事務所 地域連携課
TEL 088-654-9175

国土交通省と吉野川交流推進会議が共催している吉野川現地(フィールド)講座。干潟観察会、吉野川流域各地での野鳥観察会のほか、河口干潟に繁殖している外来種ナルトサワギクの駆除をしたり、見て、聞いて、さわって、吉野川を学べます！自転車で洪水遺産を巡る吉野川歴史探訪も人気。参加無料ですが申込が必要。講座の開催情報は新聞、チラシ、Webサイト(本誌P6にQRコード掲載)でご確認ください。



干潟観察会

とくしま自然観察の会

TEL 088-623-6783

とくしま自然観察の会では、4~10月の日曜日、吉野川南岸河口干潟でシオマネキの観察会を行っています。リズムカルにハサミを振るシオマネキをはじめ、多くの生き物に出会えます。参加費は無料ですが、資料・保険代として大人300円、小人100円が必要。汚れてもかまわない服装で、長靴、帽子、飲み物をご準備ください。干潮時に開催するので、開催日時はWebサイトで確認を。
<https://www.shiomaneki.net>

